

青梅市文化財ニュース

第332号

平成27年6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

河辺のハケと坂

市内河辺町一丁目から三丁目にかけての地区は、多摩川の河岸段丘崖に位置します。今から3,000～4,000年前頃に多摩川が作った、千ヶ瀬面と言われる平坦地です。

明治時代の地誌である『^{こうこくちし}皇国地誌・河邊村誌』の地勢の項には、

民居ハ玉川ノ北岸ニ添一帯ノ^{はけ}峽林ヲ背ニシテ各所ニ散居ス。背後ノ陸田ハ武蔵野ノ続ニシテ頗廣漠ナリ

と書かれています。「峽」はハケと読み、一般的に崖、斜面、坂などの地形をさす言葉です。「^{りくでん}陸田」は畑を意味します。人々がハケに住んだ理由のひとつは、生活に欠かせない湧水が何ヶ所もあったことです。

さらに、

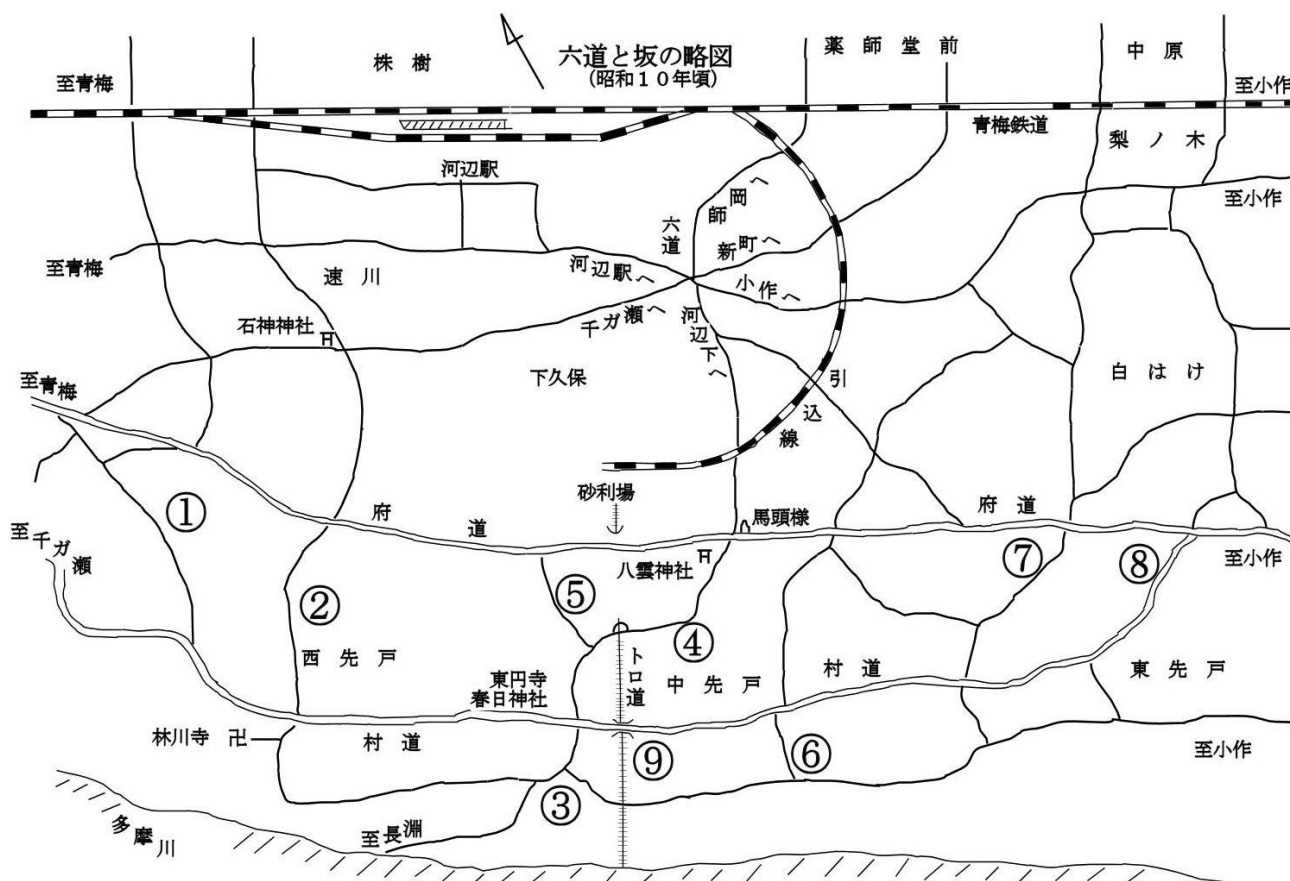
千ヶ瀬村境界ヨリ一條ノ道路南ニ臨ムコト^{わずか}纔三十六間、曲シテ^{たつみ}巽位ニ向ヒ本村元標ニ達ス。(略)更ニ巽位ニ走り、字白ハケニ至リ、東ニ向ヒ^さ些シク(わずかに)坂路ヲ登リ、再ヒ巽位ニ臨テ多摩村境界ニ至ル。(略)元標ヨリ^{うしとら}良位ニ臨ミ、坂路ヲ登リ、字薬師堂前ニ至リ野上村境界ニ達ス。

とも書かれています。河邊村の人々は、多摩村（現在の羽村市）に向かう時も、背後の陸田と、その先の野上村に向かう時もハケの坂道を登らなければなりませんでした。

荷車や馬車が自動車やトラックに変わり、道路はアスファルトに舗装されましたが、人々が坂を登り降りする状況は現在も変わりません。

ハケには名前の付いた坂がたくさんありました。今回、坂の名前と場所を調査しましたが、知っている地元の方は少なく、情報はあまり得られませんでした。『河辺郷土史資料集』には、「22の坂があった」と書かれていますが、名前だけで、場所の分からない坂もたくさんありました。

河辺町一丁目から河辺町三丁目にあり、名前の確認できる坂について紹介します。



昭和10年頃の道路図（河辺郷土史資料集より）

①お伊勢坂（おいせざか）

市道「千ヶ瀬河辺下通り」の千ヶ瀬町一丁目と河辺町三丁目境にある信号から北西へ向かい、奥多摩街道までの長い坂をお伊勢坂と言います。現在は、坂の付近に伊勢神宮を指す明神社や神明神社はありませんが、『皇国地誌・河邊村誌』に「神明社 字西先戸千三百三十六番地・・・天照大神、豊受大神二柱ヲ祭ル・・・」と書かれています。地番がお伊勢坂の近辺であることから、この社により、名前が付けられたと思われます。

②石神坂（いしがみざか）別名（おしゃもじざか）

石神坂は、千ヶ瀬町一丁目と河辺町三丁目境の信号から東へ約50m進んだ地点から北へ向かい、青梅市立総合病院南東へ通じる坂です。総合病院が建設されるまでは、総合病院の正門付近にあった石神社へ向かう坂でした。神社は、総合病院の建築時に移転し、現在は総合病院西側に鎮座しています。神社は元の場所にはありませんが、坂の名前は残りました。石神社は別名「おしゃもじさま」と言われることから、坂の名前は「おしゃもじざか」とも言われています。

③井戸尻坂（いどじりざか）

河辺町二丁目と三丁目の境にある、バラエティストアこやまの西側から南へ向かい、多摩川へ通じる坂を井戸尻坂と言います。途中に湧水があり、井戸尻と呼ばれていたため、この名が付きました。多摩川の対岸は長淵地区で、渡し船が対岸へ向かって出ていました。

④天王坂（てんのうざか）

バラエティストアこやまの北から、八雲神社の下を通り、青梅市総合体育館南東へ向かう坂を天王坂と言います。八雲神社は、明治維新以前は祇園牛頭天王社と称していました。神社の名称は変わりましたが、坂の名前は変わらず、天王坂のままです。

⑤堀坂（ほりさか）

堀坂は、天王坂の途中から、青梅市総合体育館の南西へ向かう急坂です。昭和 20 年頃までは、山道のような歩きにくい急坂でしたが、現在は舗装され、階段に手すりがついています。歩行者のみ通行可能です。

⑥宮坂（みやざか）

河辺町二丁目にある河辺駐在所の西側から南へ進む坂を宮坂と言います。江戸時代末まで、多摩川の近くに春日神社があったことから、この坂を宮坂と呼んでいるようです。また、近年まで、坂の途中に「金山大権現」という小さな祠がありました。春日金山坂とも言われているそうです。

⑦中坂（なかさか）

市道「千ヶ瀬河辺下通り」にある、河辺球技場入口の信号から 100m 程北に進んだ付近から、河辺町四丁目 22 番地に位置する中先戸公園へ向かう坂を、中坂と言います。村の中程に位置しており、中坂と呼ばれています。

⑧下坂（しもさか）

市道「千ヶ瀬河辺下通り」で、河辺町一丁目のダイヤモンドマンション付近から、河辺町六丁目 11 番地にある南白はけ公園に向かう坂を下坂と言います。『皇国地誌・河邊村誌』に書かれている、多摩村境の坂です。村の下手にあるので、下坂と呼ばれています。

⑨トロッコ跡の坂

名前はついていませんが、河辺町二丁目消防団第二分団第六部詰所の南から、多摩川方面へ向かう坂は、かつてトロッコの通っていた道です。この坂は、河岸段丘の段差に土を盛って、人工的に造られました。昭和 40 年頃まで、多摩川の河原から採取した砂利をトロッコに積んで、現在の総合体育館付近へ運び上げていました。

* 参考文献

青梅市教育委員会（2011）『皇国地誌・西多摩郡村誌（上）』

河辺老壮大学郷土史研究会（1994）『河辺郷土史資料集』

遠藤宇一郎（2001）『河辺歴史散歩』

角田清美（2011）河辺河原付近の地形・地質. 青梅市文化財保護指導員連絡協議会活動報告書.（第 27 号）

吉成 勇（1994）『日本「歴史地名」総覧』

（文責 小島みどり）